

福島県  
教育委員会  
教育長賞

## 私の挑戦。福島自然美術館

二本松市立岩代中学校

もんま ふみか  
門馬 文佳

私の住む二本松市旧岩代町は、四季の美しさが凝縮された小さな自然の宝箱のような街です。

「自然美術館のまちいわしろ」の名にふさわしい景色に、日々出会えます。

春の山々は桜色に染まり、淡いピンクの花びらが風に舞います。

空気には花の香りが混ざり、心がふわりと軽くなるようです。

夏は小川のせせらぎが耳に心地よく、手で触れる水の冷たさに心が躍ります。

秋には黄金色の稲穂が風に揺れ、夕日に輝く様子はまるで黄金の海のようにです。

冬は真っ白な雪が静かに光を反射し、木々や屋根を優しく包みます。

そんな日々の風景こそ、福島が持つ本当の美術館です。

小学生の頃、探究学習で「森の案内人」というボランティアの方に教わりました。森で松ぼっくりの傘がかじられて落ちている様子を「森のエビフライ」と呼び、リスが住んでいる証拠だと教えてくれました。その小さな発見に胸が高鳴り、森を歩き、木に触れ、鳥の声を聞き、心で自然の息吹を感じる楽しさを知りました。リスの姿を探して木々の間を歩きました。森が生きていることを肌で感じた瞬間でした。家の周りに生える銀竜草も少しずつ増え、群生する姿はまるで自然の展示物のようでした。

自然は時間とともに姿を変え、思いがけない美しさを見せてくれます。

震災で大きな被害を受けた福島自然も、少しずつ力強く回復しています。

鳥が戻り、植物が芽吹き、山や海も生き物であふれます。

その姿は、傷跡を抱えながらも輝きを取り戻す、大きな作品のようです。

だからこそ、私はこの自然の美しさを多くの人に伝えたいのです。

福島県には浜通り・中通り・会津と、個性豊かな自然があります。

青い海と力強い風、果樹園や広い水田、雪景色や湖の輝き。

どれも一つ一つが展示室で、県全体が大きな自然のギャラリーのようです。

この自然美術館をつくるためには、三つの段階が大切です。

第一に、自然を知ることです。地域で「自然観察マップ」を作り、日常の美しいものを記録します。小さな発見を積み重ねることで、自然の豊かさを実感でき、未来の宝物になります。

第二に、自然を表現することです。陶器や木工、和紙、詩や写真、映像などで発信できます。「訪れてみたい」という気持ちが生まれ、遠くの人とも自然の魅力を共有できます。

俳句や短歌で自然を詠むこともでき、さらに多くの人に届けられます。

第三に、自然を未来へつなぐことです。下草刈りや植樹、川や海の清掃、在来種の保護などに参加します。家族や友人と一緒に行うことで楽しさが増し、五感で自然を感じながら行動することで、自然を守ると同時に自分の心も育てられます。小さな一歩が、未来の大きな宝物につながるのです。

自然を知り、表現し、未来へつなぐことは、私の挑戦です。

山や川、海の豊かさを感じ、作品を通してその魅力を伝えていく。

それは、楽しみながら未来をつくることでもあります。

そして、自然美術館の館長は、今、誰でもその一歩を踏み出せます。

あなたも今日からその一歩を踏み出せば、福島自然美術館の一員です。「知る・表現する・つなぐ」を合言葉に、みんなで福島という自然美術館を育てていきましょう。